



福岡大学
副学長
菊地 昌弘

脳死肺移植施設認定を祝して

福岡大学病院で永年準備し、その実現に力を注いできた脳死肺移植実施施設としての認定申請が、5月31日に認められたことは誠に嬉しい限りであります。これで我が国では8つの施設が認定され、九州では長崎大学と共に初めての施設となったわけです。肺線維症や肺気腫等による末期呼吸不全に対する強力な手だてが、この福岡大学病院で可能となりました。臓器移植は近代医学における画期的な手法であり、骨髄、心臓、肝臓、膵臓を始めとして諸臓器について次々と実用化されており、今後は組織幹細胞を用いての再生医学とともに発展が期待されている所です。福岡大学病院が九州における拠点としてこれら先端医学の一翼を担うことが出来たことは、関係者一同の献身的な努力によるものであり、その労を多とするものです。このことはこれまで病院に求められていた要望の一端に報いることの出来るものであり、今後更なる進展と大いなる成果が期待される所であります。



福岡大学病院
病院長
白日 高歩

高度先進医療をめざした臓器移植

数年前、私は医師国家試験を控えた医学部6年生の主任任として、毎週2～3度図書館地下の彼等の勉強部屋を見廻るのを常としておりました。その時、ある部屋の壁に某大病院での脳死臓器移植成功についての新聞記事が大きく貼り付けられているのを目にしました。他の部屋でも同じ経験をしました。そして医学生達がそのような大病院に憧れている事を知りました。私はこの切り抜き記事を目にしなが、このような医学生達の為にも、何としても外科系の最高の挑戦分野である臓器移植を、福岡大学病院に定着させねばならぬとの強い感慨を覚えた事を忘れる事が出来ません。特定機能病院のかかえる役割の1つに、高度先進的医療の展開がありますが、臓器移植はその分野の1つとして特筆される内容のものであります。どうか九州、福岡地域における第一流の基幹病院として、我々のめざす医療である「perfectな臨床」がどのように展開されるか、これからも暖かい目で見守っていただきたいと思ひます。



外科第二医局長
白石 武史

九州における脳死肺移植の幕開け

長い準備期間を経た後、福岡大学は肺移植実施施設に認定されました。脳死臓器移植は97年制定の「臓器移植法」を期に開始され、当初有力な4国立大によって開始されました。この時本学も認定を申請し、僅差でチャンスを逃した事をご記憶の方もいらっしゃると思います。その後我々は臨床・研究両面で準備を続け、不備と指摘を受けた問題点を解決し、今回の認定を得ることが出来ました。そもそも臓器移植とは単なる外科手術の一部ではなく、免疫・感染・代謝・生理学等の基礎医学から心臓外科・麻酔科・呼吸器病・循環器病学等の臨床医学さらに看護・臨床検査などのコメディカルまで広い範囲の協力を無くしては成し得ない医療です。脳死肺移植認定を得られたということは、各部門の実力と連携能力が公式に認められたものと考えます。第2外科移植チームは近い将来肺移植の第一例目を成功させるべく更に努力を傾注いたします。院内各部門の方々のご支援をお願い申し上げます。



手術部長
山下 裕一



泌尿器科助手
中村 信之



外科第一副診療部長
安波 洋一

治療困難な肝疾患に対する肝移植

肝移植には死体肝移植と生体肝移植があり、我国における2003年末までの肝移植数は、51施設で死体肝移植25例を含む2692症例に行われています。先天性疾患、代謝性疾患、劇症肝炎、さらに非代償期肝硬変及び肝硬変に肝細胞癌を合併した一部の症例などには健康保険での治療が可能です。九州では、九大、長崎大、熊本大、鹿児島大に次いで福岡大学で肝移植が実施されています。今回の第2外科での肝移植は、各部門の一致した協力のもとに順調に経過致しました。今後も引き続き肝移植症例を受け入れていきますので第2外科または消化器内科にご相談頂ければ、迅速に対応致します。

各科との緊密な連携での「総合力による腎臓移植」

福大病院では、腎臓内科や小児科などの各科との緊密な協力のもとで「総合力による腎臓移植」を行っております。当院での腎臓移植の歴史は長く1984年に第1例目が行われて以来30例を超える移植を行ってきました。昨年からは、生体腎移植ドナー（腎提供者）の負担を軽減するため、鏡視下の腎臓摘出を開始し、良好な成績を収めております。また最近が良い免疫抑制剤や検査法が開発されていることもあり、ほとんどの患者様は拒絶反応等起こすことなく社会復帰されております。透析を行っているのは困難であった旅行や出張、海外留学をされた方もおられます。子供にとっての腎臓移植は、その精神、身体の成長に重要な役割を果たします。これからも患者様を中心としたチームワークで移植医療に取り組んで参りたいと思ひます。

インスリン依存糖尿病の新しい治療法としての膵島移植

膵島移植という治療法をご存知でしょうか。重症糖尿病の根治を目指して、研究開発が進められている細胞移植医療で、21世紀の新しい治療法として注目を集めています。世界的には5年前にカナダで、我が国では昨年4月に最初の成功例が報告され、今後は飛躍的に発展すると期待されています。福岡大学病院は我が国での移植実施5施設の一つに選定され、準備が完了しています。私たちは福岡大学病院で膵島移植を実施し、我が国のみならず、世界的にも膵島移植のリーダーとなることを目指しています。膵島移植はチーム医療で外科第一、内科第一、臨床検査医学、放射線科、薬剤部、輸血部の共同プロジェクトとして推進しています。

脳死臓器移植登録のための手順

